

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宝木中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 120人

② 数学 120人

5 留意事項

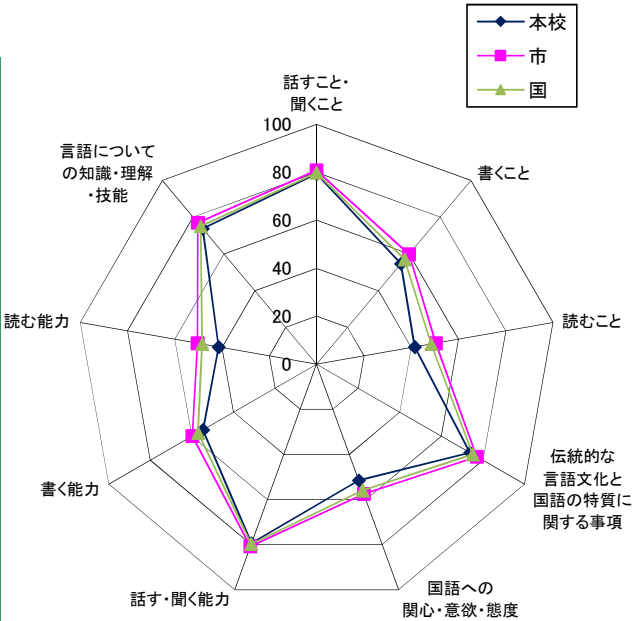
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宝木中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	79.4	80.8	79.8
	書くこと	54.7	59.8	57.1
	読むこと	41.5	50.4	48.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.8	77.0	75.1
観点	国語への関心・意欲・態度	51.5	57.5	56.0
	話す・聞く能力	79.4	80.8	79.8
	書く能力	54.7	59.8	57.1
	読む能力	41.5	50.4	48.5
	言語についての知識・理解・技能	73.8	77.0	75.1



★指導の工夫と改善

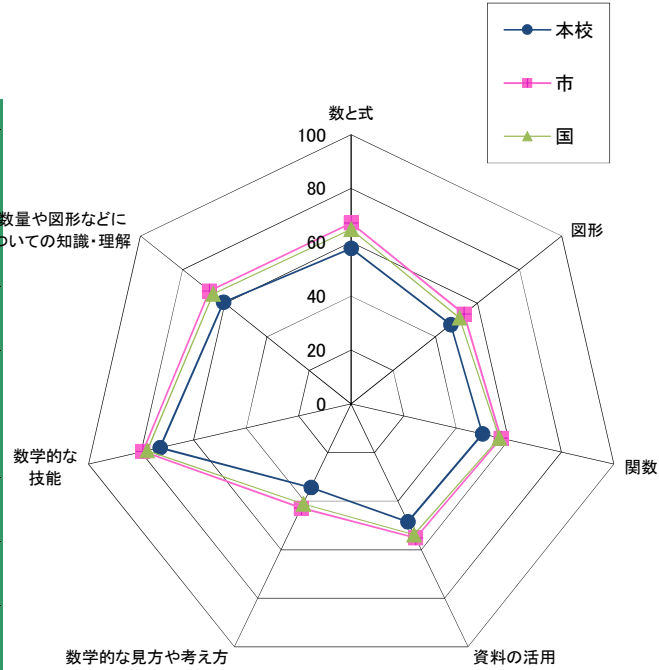
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は市と県の平均をやや下回っている。 ○話し合いの全体的な方向性を捉えることができていない。 ●「参加者の誰がどのようなことについて発言するとよいかと、そのように考えた理由を書く」という問題の正答率が低い。	○1年の時から行っている聞き取りテストを継続していく。 ・話し合い活動の際には、効果的な議論のポイントについて指導する。
書くこと	平均正答率は市と県の平均を下回っている。 ○文章を校正した意図を捉える問題の正答率は比較的高かった。無回答の生徒も0人であった。 ●自分の考えを書いたり、伝えたい事柄を相手に効果的に伝わるように書いたりする問題では、無回答率が市や県の平均より高かった。	・文章を書く機会を増やす。その際に、自分の意見を形成し、表現できる力を養う。苦手とする生徒には、個別支援を手厚く行う。
読むこと	平均正答率は市と県の平均を下回っている。 ○登場人物の心情や行動に注意して、内容を読み取る力は身につくつつある。 ●特に、「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ」に関する問題の正答率は、市や県の平均を大きく下回っている。	・登場人物の心情を読み取ることや要旨をまとめる学習内容の際に、ポイントを確認した上で読み取る、という活動を継続していく。 ・文学的文章を読み取る活動の際に、自分の考えを持ち表現する活動を定期的 to 実施する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は市と県の平均をわずかに下回っている。 ○「相手や場に応じて敬語を適切に使う」問題では、国の平均を上回っている。 ●漢字の読み書きは県の数値とほぼ同等であるが、語句の意味についての理解が不足している。	・漢字の読み書きについては、補助教材(漢字ノート)を利用した家庭学習、授業での確認小テストが功を奏しているので、今後も継続していく。 ・語彙を増やす活動を毎時間の学習内容に計画的に組み込んで実施する。

宇都宮市立宝木中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	57.8	67.2	64.9
	図形	47.3	53.6	51.4
	関数	50.0	57.0	56.4
	資料の活用	48.5	55.1	53.8
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	34.4	42.8	41.1
	数学的な技能	72.8	79.3	77.7
	数量や図形などについての知識・理解	60.6	67.4	65.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	平均正答率は、全国平均・県平均・市平均を下回っている。 ○ 整式の加法と減法の計算の問題は正答率が75%弱と比較的高く、県平均との差は2.0ポイントにとどまった。 ● 理由等を説明する問題の正答率が相対的に低く、出題された2問においてそれぞれ県平均を約10ポイント下回った。	・数式処理などの技能については、反復練習を行うことで十分に身につけさせる。 ・数学の用語を正しく理解させる。また、授業中に説明する場面で積極的に使用させ、数学的な表現力の向上を図る。
図形	平均正答率は、全国平均・県平均・市平均を下回っている。 ○ 平行四辺形になるための条件に関わる問題の正答率は県平均との差が比較的小さく、2直線の位置関係を記号を用いて答える問題では差が-0.7ポイントであった。 ● 扇形の中心角と弧の長さの関係についての問題は、基本的な内容であるにもかかわらず、正答率が60.8%にとどまり県平均を6.4ポイント下回った。	・図形の内容については感覚的に理解できている部分があるものの、適切な表現を用いる問題文は論理的な表現になるため、題意を正確に読み取れない傾向が見られる。数学の指導の中に国語の要素を可能な範囲で取り入れ、数学における説明的文章の読解力の向上を図る。
関数	平均正答率は、全国平均・県平均・市平均を下回っている。 ○ 与えられた表やグラフから必要な情報を適切に読み取る問題の正答率は90.0%で良好であった。 ● 問題解決の方法を数学的に説明する問題の正答率は19.2%と低く、県平均を8.4ポイント下回った。	・表や式、グラフの扱いについて基本的な技能は身につけているものの、自らが行う数学的な操作について客観的に正しく説明する力が不足している。生徒同士で考えを伝えあう場面においては、積極的に相手の意を汲み取るのではなく、最後まで相手の説明を聞き吟味する習慣を身につけさせる。
資料の活用	平均正答率は、全国平均・県平均・市平均を下回っている。 ○ 与えられたデータから中央値を求める問題やヒストグラムから階級の度数を求める問題の正答率は78~80%と比較的高く、おおむね良好であった。 ● 相対度数の必要性和意味を問う問題の正答率は30.0%と低く、県平均を7.2ポイント下回った。	・階級の幅や階級値、相対度数、代表値など、その値の意味について考える機会を十分に設け、その必要性を理解させる授業を行う。

宇都宮市立宝木中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」の質問に、きちんと守っている・だいたい守っていると回答した生徒が78.5%となっており、これは県の71.4%や国の67.9%に比べ高い結果となっている。本校3年生は1年時のスマホの所持の調査で高い割合であったため、1年時より、携帯・スマホの使い方安全教室を毎年実施するとともに、生徒指導主事が様々な情報を発信し、生徒だけでなく保護者にも啓発を行ってきた。また、学級においても常々指導が継続的になされている。このまま、スマホでのトラブルがない状態を継続したい。

○「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に、当てはまると回答した生徒が87.6%となっており、これは県の86.0%や国の81.4%に比べ、わずかながら高い結果となっている。さらに、どちらかといえば当てはまると答えた生徒を加えると98.3%となり、100%にはなっていないが、県や国の結果より高い。当てはまらないと回答した生徒は0.0%であり、いじめを肯定した生徒はいない。日常の生徒指導において、いじめ撲滅の指導は、学校をあげて取り組んでいるところである。また、学年の目標の一つとして、「いじめゼロ」は入学時より生徒・保護者に対して常にお願していることであり、常々学級・生徒会でも重点的な取り組みがなされており、その結果とも言える。今後も「いじめゼロ」を目指して取り組みたい。

○国語の勉強は好きですか、国語の勉強は大切だと思いますか、国語の授業の内容はよくわかりますか等の国語に関する質問に対して、当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答している生徒は、県や国よりも3から13ポイント高い。実際、休み時間等に読書をする姿もよく見かける。学習が得意ではない生徒の割合は高いが、国語に対してやる気のあることを活かして今後も学習に向けさせたい。

●「友達と協力するのは楽しいと思いますか」の質問に、当てはまると回答した生徒は56.2%で、これは県の71.3%や国の65.8%に比べ低い結果となっており、今後の課題である。現在、コロナ禍で友達どうしの関わりに制限がある状態であるが、今後の人生において、人と関わることは避けられず、肯定的に捉えさせたい。今後も普段の授業をはじめ、学級において、また行事や生徒会活動等に関わることによって生まれる、人としての喜びを味わわせたい。

宇都宮市立宝木中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
◎思考力や判断力、表現力等を育成する言語活動の実践	(1)『分かる授業』の推進 ①「本時の目標(めあて、ねらい)」をつかむことのできる明確な表示	○国語の授業の内容はよくわかりますか 88.4%(県83.3%、国80.1%) ●数学の授業の内容はよくわかりますか 71.9%(県75.4%、国74.8%)
	②話し合い活動の積極的な導入	●1、2年の時に受けた授業で、生徒の間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え(自分と同じところや違うところ)を受け止めて自分の考えをしっかり伝えていましたか 75.2%(県86.6%、国83.7%) ●道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか 76.9%(県90.2%、国86.2%)
	③「ふりかえり」活動の徹底	●学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか 67.0%(県77.0%、国74.6%)
◎家庭学習ノートの活用など、家庭学習の一層の充実	(2)家庭学習の習慣化	●家で自分で計画を立てて勉強をしていますか 62.8%(県68.5%、国63.5%)

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
(1)『わかる授業』のより一層の推進に向けて		
①「本時の目標(めあて, ねらい)」の提示を 95%以上にし, 習慣化を図る。	①「本時の目標(めあて, ねらい)」の確実な提示	①毎時間の学習課題に即した「本時の目標(めあて, ねらい)」の提示を, 毎時間, 確実に行う。
②授業で使うノートの効果的な活用を図り, 学習の目標(めあて・ねらい)とまとめが書かれている生徒の割合を90%以上にする。	②効果的なノートの活用	②-1 教科担任によるノートの確認などを通して, 学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書かせる指導を充実させる。 ②-2 教科担任による板書の工夫と, 学習の定着を図った効果的なノートの活用法の指導を充実させる。
③授業における, 生徒同志の話し合い活動の更なる充実を図る。	③話し合い活動の積極的な導入	③各教科担任による授業中の話し合い活動の充実だけでなく, 学級担任による学級活動の活性化も図る。
④生徒間の話し合い活動をより一層充実させ, 考えを深めさせたり, 広げたりすることができている生徒の割合を85%以上にする。	④生徒の考えを引き出し, 思考を深められる(主体的に考えられる)発問の工夫	④教科担任による教材研究の充実と, 「一人一授業」の公開による教師間の学びあいを通して, 授業力の向上を図る。
⑤学習内容の振り返りを習慣化させる。	⑤「ふりかえり」活動の徹底	⑤ワークシートやまとめのテスト, 自己評価などを活用して, 学習のねらいに即した振り返りを確実に実施する。
(2)家庭学習のより一層の充実に向けて		
①家の人と学習について話をしている生徒の割合を85%以上にする。	①学習に対する家庭の関心を高める工夫	①三者懇談, 教育相談, 学校だより, 学級だよりなどを活用した学習に関する情報提供を充実させる。
②予習, 復習などの計画的な家庭学習を, より一層充実させる。	②自主学習ノートの点検, アドバイス, 賞賛	②-1 学級担任による, 家庭学習の内容の点検と, コメントの記入等による助言を行い, 誉める指導を充実させる。 ②-2 優れたノートの学年の廊下への掲示と, 小学校への紹介を行い, 実践例の紹介を通して, 自主学習ノートの活用と工夫を促す。
③「家で, テストで間違えた問題について勉強をしている」生徒の割合を更に増加させ, 学習内容の効果的な定着を図った復習を実施させる。	③家庭学習の仕方を明示, 説明	③-1 教科担任からの復習方法の助言と個に応じた指導を充実させる。 ③-2 本校独自の「家庭学習の手引き」を活用し, 保護者にも家庭学習の方法を紹介して, 家庭学習の充実を促す。